

1. 国際感染症学院学生の外国語能力向上に関する取組（2021 年度以降入学者に適用）

1) 外国語能力の到達目標

- ・第1回、第2回資格審査を全て英語で実施することを強く推奨する。
- ・大学院修了時の英語力の到達目標を、英語による学会発表に置き、筆頭演者として最低でも1回の発表を目標とする。
- ・海外インターンシップ A または B を必修科目としている。
- ・学位論文発表会を全て英語で実施する。

2) 外国人能力を向上させるために実施する取組

- ・第1回、第2回資格審査を全て英語で実施することを強く推奨する。
- ・大学院修了時の英語力の到達目標を、英語による学会発表に置き、筆頭演者として最低でも1回の発表を目標とする。
- ・海外インターンシップ A または B を必修科目としている。
- ・学位論文発表会を全て英語で実施する。

2. 学生の国際性を汎用できた事例

（事例1）

学生 A は国際感染症学院の第1期生であり、1年次より、「アカデミック・イングリッシュ」やすべて英語で提供されている大学院授業を履修することで、実戦的な英語コミュニケーション能力の向上に努めてきた。また、本学大学院の入学と同時に One Health 大学院教育リーディングプログラムに参加し、学生間での研究発表セミナーや自由参加で開かれる英語でのディベートクラスにも積極的に参加するとともに、学生主体で運営しているプロGRESミーティングでは、中心的な役割を果たし、海外から外国人研究者を招聘するなど、国際交流活動にも精力的に力を注いだ。2年次には、「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」に応募し、採用され、本学で得た研究能力、語学力、リーダーシップ能力等を活かし、2019年3月より半年間、サウジアラビアにて、インターンシップを行っており、現地研究者とのコミュニケーションを通じ、異文化理解を深めている。